



身近な  
バリバリの  
暮らしの  
情報誌  
通信

BARIBARI  
TSUSHIN

2022  
SUMMER  
VOL.116

発行 四国ガス燃料  
愛媛県今治市中央226-1 TEL:0893-32-0725  
https://www.shikoku-gasnen.co.jp/

**展示フィギュアの数々**  
プラモデルコレクションから最新フィギュアまで海洋堂の歴史とコレクションを大量展示。

この博物館の楽しさは、見るだけにとどまらない。「海洋堂」のフィギュアを使い、自分だけのジオラマを作れる体験教室も開催されている。ぜひこの機会にもづくりの楽しさを味わってみてほしい。

二〇二二年四月のリニューアルでは、館内展示がさらに充実。エヴァンゲリオンや北斗の拳などの人気アニメ、埴輪や仏像といった美術品の精巧なフィギュアも登場している。



**ジオラマ体験教室**  
好きなフィギュアを選んで自分だけのオリジナルのジオラマが作れる。  
制作時間約1時間、体験料金1,650円(税込)



**海洋堂創業者 宮脇修氏と「始まりの木刀」**  
海洋堂創業者である宮脇修氏の運命を決定した「始まりの木刀」。大阪府守口市で海洋堂を創業し、豪快かつ破天荒なアイデアで全国に知られる名物模型店となる。館内には設立当時の写真や制作物が年代順となって展示されている。

緑が眩しい山の中でひとときわ目をひく、カラフルな外観。高知県高岡郡四万十町、自然豊かな山間部にある「海洋堂ホビー館四万十」は、大阪に本社を置く日本が世界に誇るフィギュアメーカー「海洋堂」で製作された様々なフィギュアを展示した博物館だ。

それにしても大阪に本社を置く「海洋堂」がなぜ高知県に博物館を？と不思議に思う人も多いだろう。「海洋堂」と高知県は、創業者である宮脇修氏でつながっている。

「プラモデル店海洋堂」が誕生した。イチかバチかの航海をはじめた「海洋堂」がいかにかして世界的フィギュアメーカーへと成長していったのかは、「海洋堂の軌跡」の展示コーナーで知ることができる。

博物館のキャッチコピーは「わざわざいこう！へんぴなミュージアム」。高知市内から車で約一時間半、決して便利とは言えない場所にもかかわらず国内外から多くの人が訪れる。

博物館内に二本の木刀が展示されている。これが宮脇氏の運命を決定した木刀だ。彼が商売を始めようとしたとき、「海洋堂」という屋号は決めていたものの、何の店をするか悩んでいたそうだ。習い覚えた手打ちうどんの店にするか、当時流行の兆しを見せていたプラモデル店にするか。迷いに迷い、ついにこの決断を天にゆだねることにした。「上から木刀を紐で吊るし、紐をハサミで切って倒れた向きで決めたよう。東西に倒れたらうどん屋、南北に倒れたらプラモデル店。」かくして

「創るたのしみをすべての人に」をコンセプトに、日本の模型・フィギュアを今もなお支え続けている宮脇氏。

**フィギュアの聖地  
海洋堂ホビー館四万十**  
(高知県高岡郡)



**海洋堂ホビー館 四万十**  
世界的なフィギュアメーカーとして知られる海洋堂の歴史とコレクションを展示。過疎の地域に新たな人の集まりと賑わいを起こすという思いがこめられたミュージアム。

入館料 一般(高校生以上)800円 小中学生400円 ※未就学児無料  
開館時間 10:00~18:00(11月~2月は17:00まで)  
休館日 毎週火曜日 火曜日が祝日の場合、翌日水曜日  
年末年始12月28日~1月1日(7月第4週~8月末までは無休)







**四万十町までの交通【自動車】**

松山ICから 松山自動車道～国道381号経由…約2時間30分  
 高松中央ICから 高松自動車道～四国横断自動車道/高知自動車道経由…約2時間18分  
 徳島ICから 徳島自動車道～四国横断自動車道/高知自動車道経由…約2時間46分  
 高知ICから 四国横断自動車道/高知自動車道経由…約55分



**久礼大正市場と道の駅あぐり窪川**

久礼大正市場(上)は中土佐町の漁師町にあり、鏝はもちろんその日水揚げされたばかりの新鮮な旬の魚をはじめ、地元野菜や果物などが並ぶ昔ながらの商店街。農業や畜産がさかんな四万十町にある道の駅あぐり窪川(下)。大粒の四万十ボークのミンチに、地元の野菜をふんだんに使った名物「具だくさん豚まん」が人気。



**海洋堂ホビー館のお土産**

中身はわからない食玩フィギュア5種詰め合わせ(1,100円)は開けてからのお楽しみ。さまざまなフィギュアやガチャガチャ、オリジナルグッズが充実。



**設立当時の海洋堂**

貸本屋を改装して開いた設立当時の海洋堂。店内の3分の2を使ってプールを作り、子供たちを戦艦のプラモデルで自由に遊ばせた。また、廃業した工場を借りて大きなレース場を作ったり、夜遅くまで大盛況であった。

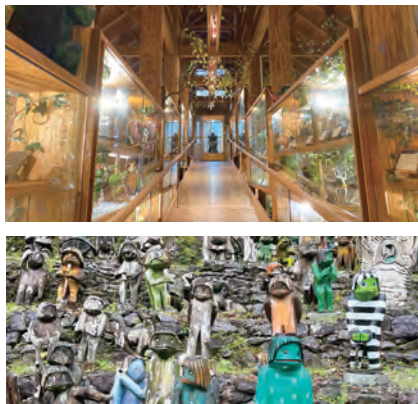


型破りな経営が注目されがちではあるが、造形物の精巧さや技術の高さ、造形センスも世界屈指の水準を誇る。「海洋堂」のものづくりスタイルは、個人の人間性や作家性、存在感をとことん大事にすることにあり。常に新しいことに挑戦し高みを目指す原型師たちの姿は、既成概念にとらわれず、豪快かつ破天荒なアイデアで業界の風雲児であり続ける創業者の信条とも重なっている。

ホビー館の近くに、河童をテーマにした珍しい博物館「海洋堂 かつば館」がある。宮脇氏がホビー館のある森に自然のパークを作りたいという思いから開館したそうだ。河童の住む館をイメージしてつくられた古い瓦を再利用した屋根や土壁など、エコロジーでお洒落な造りにも注目だ。

なんとノスタルジックな館内外には、四万十川カッパ造形大賞に世界中から応募された河童の作品が五〇〇点以上飾られている。リアルな河童、かわいい河童、怖い河童、シニールな河童などユニークな河童が勢ぞろい。一つとして同じものはない。応募者たちのその豊かな発想力には驚きの連続だ。

自分のお気に入りの河童を探してみるのも楽しいだろう。フィギュアと河童、山の中にたたくずむ二つの不思議な博物館には多くの人を楽しませたいという思いが詰まっていた。子どもだけでなく年を重ねた大人にも、幼い頃に感じたワクワクを与えてくれるだろう。その独特の海洋堂ワールドには一度ハマると抜け出せない魔力がありそうだ。



**海洋堂 かつば館**

館内には常時500点以上のカッパ作品、館外にもチェーンソーアートで作られたユニークなカッパが並ぶ。平成26年には2号館を増設。遊び心を詰め込んだ奇想天外なミュージアム。

プラモデル業界が低迷しつつあった一九八〇年代、「欲しいものがないなら自分たちで作ればいい」と、少数生産で作られるオリジナルの組み立て模型「ガレージキット」の製造・販売を始め、一九九八年には可動式の関節部を備えたアクションフィギュアを開発する。一九九九年に発売され、およそ3年間で1億3000万個を売り上げ、社会現象となったタマゴ型チョコレート「チョコQ」や「チョコQ」の大ヒットは記憶にある人も多いただろう。この食玩ブームが「海洋堂」の知名度をさらに高めるきっかけとなった。



**社会現象となったタマゴ型チョコレートと原型師**

卵型のチョコレートの中におまけの玩具が入っている。当時の食玩とは段違いの造型クオリティで大ヒットとなり、食玩ブームの火付け役となった。



入館料 一般(高校生以上)500円 小中学生300円 ※未就学児無料  
 開館時間 10:00～18:00(11月～2月は17:00まで)  
 休館日 毎週火曜日 火曜日が祝日の場合、翌水曜日  
 年末年始12月28日～1月1日(7月第4週～8月末までは無休)